

東京トラウトカントリー溪流フライ教室

2010年3月7日（第4回）分の補足資料

担当：宮崎 俊太

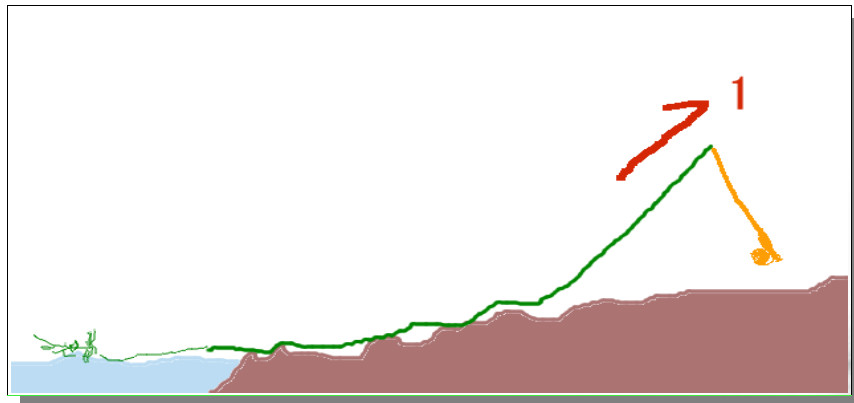
ラインコントロールの

補足

- ピックアップについて

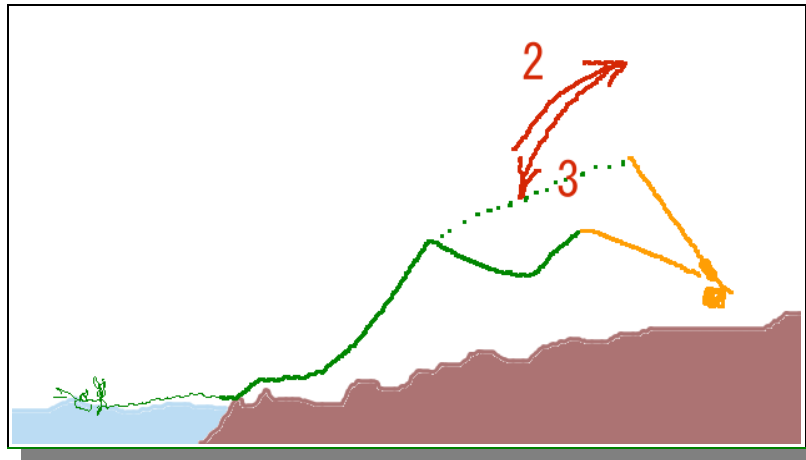
川から距離をとってキャストイングしてフライを流し終えた時など、次のポイントにキャストイングするべくピックアップしますが、その時に流れたラインをそのままピックアップすると大抵はラインが岸辺の石に挟まってしまったりフライが障害物にフッキングしたりします。そのようなトラブルを防ぐにはピックアップ（キャストイング・ステップの1）を「N字ピックアップ」などで水面や川岸にあるラインの一部を空中にピックアップしてラインの軌道を変化させてからバックキャスト（キャストイング・ステップの2）をすると効果的です。要領はピックアップ（キャストイング・ステップの1）の時、ロッドティップを素早く上下してからバックキャスト（キャストイング・ステップの2）します。タイミング良くN字ピックアップが出来ると、横から見た時のライン軌道が「N字」を描きます。以下を参考にしてください。

補足1：N字ピックアップについて



フライを流し終えて次のキャストイングのためにラインをピックアップ（キャストイング・ステップの1）を始めるわけですが、その時のラインの状態は図1・上のようにラインとリーダーが川岸に乗って

いる場合、そのままピックアップするとフライやラインが石などの障害物に挟まったりしてライントラブルを起こしやすい。



そこで図2・上のように「N字ピックアップ」で川岸に乗っているラインを空中に引き揚げた後、バックキャスト（キャストイング・ステップの2）を行います。

要領は図2・上の2と3の矢印のように素早くロッドティップを動かして、3が終わった位置からバックキャスト（キャストイング・ステップの2）に移ります。N字ピックアップからバックキャストをすると、2、3で描いたN字（緑のラインのN字に注目！）を追うようにラインが動きます。また、2と3それぞれのスピードや距離を変えることによってN字ピックアップの効果に変化を付けることが出来ます。

講師は実釣時、ほとんどの場合でN字ピックアップ（縦や横のロールピックアップやスラッグピックアップを状況に応じて組み合わせて）をしています。障害物の陰や長めにラインを出している時にライントラブルを防ぐためですが、まずはアプローチからキャストイングを予想してどのようにキャストしてピックアップすれば良いかを確認することが大切です。そして余分なラインはその都度リールに巻き込むとその後のキャストイングが大変スムーズになります。

尚、N字ピックアップの練習は水面にラインを置いてするとコツが掴みやすいです。5ヤードから10ヤード程度のラインで練習を始めてください。

